

# ファルマバレープロジェクトから人生 100 年時代への住まいを提案

## コンセプトモデルとしてのファルマモデルルーム開設 『自立のための 3 歩の住まい』

「人生 100 年時代における高齢者のための住まいの在り方」を考える第一歩としてコンセプトモデルを提案するため、令和 3 年 3 月 5 日、静岡県医療健康産業研究開発センター 1 階にファルマモデルルーム『自立のための 3 歩の住まい』を開設し、一般県民、医療・介護・福祉関係者、行政関係者、企業、研究者及び金融機関などに広く公開しております。

### ファルマモデルルーム『自立のための 3 歩の住まい』

#### 1 開設の意義：人生 100 年時代の住宅づくりには発想の転換が必要

人生 100 年時代において、老化が進み、健康寿命の尽きたあとの高齢者の居室はどうあるべきか。これは誰にとっても極めて切実な問題です。住宅メーカーもそれぞれに住まいのあり方を研究、発表していますが、それらの多くは健康的な家族の住まいを基本としております。

しかし、老いは個別であり、もはや家族の住まいではなく、私の力で一日でも長く自立して過すことのできる「私（私と伴侶）の住まい」が求められるはずです。

私たちは、住まいへのこのような「発想の転換」を図ることで、これからの 20 年先を見つめ、新しい高齢者の住まいのあり方であるコンセプトモデルとしての「ファルマモデルルーム」を提案し、多くの皆様と対話しながら、未来に向けた理想の住環境を共に創り上げていきたいと考えています。

#### 2 特徴

##### (1) 静岡がんセンターの経験から考え出された『自立のための 3 歩の住まい』

ファルマモデルルームでは、およそ 20 年にわたる静岡がんセンターの患者・家族支援の経験から、一般の住宅ではなく、病室やホテルの部屋をモデルとしています。

モデルの起点となったのは、まずベッドです。ベッドが寝る場・休む場から、多くの時間を費やす暮らしの場となります。次に着目したのがトイレと浴室。つきつめると、自立とは、ベッドで暮らしを営み、ベッドからトイレや浴室に自分の力で行けることです。そのために、3 歩の距離にすべてを配置しました。

「3 歩」とは、まさに自立の象徴であり、それがこれからの高齢者の暮らしのコンセプトモデルになると考えます。「3 歩」をコンセプトとして、新しい間取りを求め、これまでにない新たな居住空間を創造しています。

## (2) 4つの特徴から考え、現在における最新の装備を導入

ファルマモデルルームは、全体として、木目調を基本とした明るく落ち着いた壁面に加え、白く遊び心があるアーチ状の仕切りを水回りとの境にし、その奥の壁面を品のあるピンクに配色することで、華やかでかつ暖かい雰囲気を演出しています。

また、機能については、次の4つの特徴を基本とし、現在における最新の装備を導入しました。健康を管理し、心身の機能をサポートするばかりでなく、高齢者が生き生きと暮らすための高機能な設備を集めました。

### < 4つの特徴 >

- ① 3歩から考える
- ② 医療介護部屋（感染症対策）
- ③ ロボット化・AI化
- ④ 家族・社会との絆

① 3歩から考える	
3歩の空間設計	ベッドから浴室・トイレを極限まで近づけ、移動の負担軽減に配慮した設計。浴室は浴槽を置かず、高機能シャワーを設置することでコンパクト化し、さらにトイレ、洗面台とともに一直線に配置することで、動線をシンプルに快適な空間を実現。
生活補助天井レール	「自立を支える」機能的な道具箱や起き上がり補助具などをカスタマイズでき、生活を補助する天井レールを装備。
② 医療介護部屋（感染症対策）	
床・壁素材	「抗菌、消臭、抗ウイルス、抗アレルギー」のファルマ仕様の新素材を活用。
空気清浄	気になるニオイを分解・脱臭するナノイー発生機を完備。
高機能シャワー	湯船に浸からなくても十分な温浴効果が得られる高機能シャワーを設置。
クリーン洗面台	手をかざすだけで、操作できるタッチレスの洗面台。本モデルルームでは、床壁素材と同じ素材を活用し、感染防止対策を徹底した最新式の洗面台を設置。
③ ロボット化・AI化	
高機能ベッド	寝姿勢から立ち上がり姿勢まで 4つのポジションに変形する介護用電動ベッドを設置。キャスター付きで設置場所を選ばず自由にレイアウトが可能。機能的で可変的な住まいに貢

	献する。
高機能トイレ	スマートフォンとの連携による高齢者の暮らしを遠隔で見守る機能が搭載された最新式のトイレを設置。
スマートスピーカーとの連携	家電等の電子機器との連携により、高齢者には負担の掛かる電源の入切などを声等で操作するネットワークを構築。
<b>④家族・社会との絆</b>	
高機能ディスプレイ	まるで1枚のガラス板のように窓が映像に変わる透明有機ELディスプレイ。透明ゆえに外の景色や光を取り込みつつ、離れて暮らす家族との会話や遠隔診療など、インターネットを通じたコミュニケーションの窓として、家族や社会とのつながりに貢献する。

### 3 未来に向けた展望

#### (1) 20年後に向けた共同研究室として

このファルマモデルルームは、コンセプトモデルであり、完成されたものではありません。20年後に向けたアイデアの創発と製品の開発に向け、一般県民、医療・介護・福祉関係者、行政関係者、企業、研究者及び金融機関の皆様との「共同研究室」です。現在の装備品も適宜最新のものに更新してまいります。

共に議論をするために、モデルルーム内には、私たちが考える20年後に向けた開発のアイデアも用意しました。さらに皆様からのアイデアを募り、共同して新技術、新機能、新サービスの開発に取り組んでまいりたいと考えております。

#### (2) コンソーシアムの形成

ファルマモデルルームの制作にあたっては、静岡県、静岡がんセンター、ファルマバレーセンターを基本メンバーに、人生100年時代の暮らしの開発に取り組んでいる企業、団体がコンソーシアムとして参画しました。以下がそのメンバーです。今後、更なるメンバーの拡充を求めています。

株式会社システム環境研究所

一般社団法人国際医療健康交流機構

株式会社メディアファ設計

ノンスケール株式会社

有限会社アルテシテ

パナソニック株式会社ライフソリューションズ社

アイカ工業株式会社

株式会社セントラルユニ

## ファルマモデルルーム『自立のための 3 歩の住まい』



### <お問い合わせ先>

公益財団法人ふじのくに医療城下町推進機構 ファルマバレーセンター

住 所：静岡県駿東郡長泉町下長窪 1002 番の 1

連絡先：TEL：055-980-6333 FAX：055-980-6320